

## ヒブ Hibワクチン

「Hib」とは *Haemophilus influenzae type b* の頭文字で、インフルエンザ菌 b 型のことです。誤解されやすいのですが、冬に流行するインフルエンザはインフルエンザウイルスが原因で、Hib とはまったく関係がありません。

Hib は非常に病原性が強く、乳幼児の髄膜炎などの重症な全身感染症を発症します。日本では年間 400 人以上の Hib 髄膜炎患者が発生します。十分な治療を受けても 10～20 パーセントの人が死亡したり後遺症を残したりするため、予防が非常に重要です。連載の第 3 回でも取り上げましたが、アメリカでは 1988 年から Hib ワクチンが導入され、今では Hib の重症感染症がほとんどなくなりました。接種を求めるお父さん、お母さんたちや小児科医の叫びが実を結び、遅まきながら平成 20 年 12 月から日本でも任意接種が可能となりました。

Hib ワクチンは、標準的には生後 2 か月から 7 か月になるまでに接種を開始し、4～8 週間隔で 3 回、追加として 1 年後に 1 回の合計 4 回接種をします。4 回接種を受けた人のほぼ 100 パーセントに免疫ができますとされています。また、生後 7 か月を過ぎてしまった場合でも、途中から接種を始めることもできます。ワクチン接種後に複数の死亡例が報告されたため、一時的に厚生労働省から接種見合わせの発表がありましたが、その後の検討で安全上の問題はないと結論づけられました。大和市では、生後 2 か月～5 歳未満（5 歳の誕生日の前々日まで）の子に対し、4 月 1 日から来年 3 月 31 日まで Hib ワクチンの接種と公費助成が再開されています。

次回掲載予定の小児用肺炎球菌ワクチンなど、接種できるワクチンが増えたため通院の回数も増えてしまいましたが、複数のワクチンを同時接種することも医師の判断により可能です。お子さんの予防接種の最適なスケジュールについて、ぜひかかりつけ医にご相談ください。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111 が担当しています。）